

## 清水 学 「邦語で読めるウクライナ関連文献・書籍の紹介」

ウクライナ問題に限られたエネルギーを割かざるを得ない日々が続いています。日本での報道の在り方には不満・不安・危険性を感じていますが、それはそれとして、問題にする割にはウクライナに関する知識は国民の間にほとんど深まっていないのが実情だと思います。現状の対応の是非に関しては多様な見解が存在すると思いますが、とりあえず、ここ3カ月ほどの間に必要に迫られて参照した邦語関係のものを、小コメントを付けて紹介させていただきます。

未整理で体系的ではないのですが、何らかの参照になればと思います。

ちなみに、ウクライナにおいては「コサック精神」を国民統合原理のひとつにしようとしており、「コサック」はキーワードのひとつです。またウクライナ語をアイデンティティーの中心におくこだわりは、旧ソ連圏での言語政策とは異質なものも感じます。

### (1) 伊東孝之・井内敏夫・中井和夫編『ポーランド・ウクライナ・バルト史』山川出版社 1998年

この地域の歴史の概観を得るうえで有益、標準的教科書的であるが最近の歴史学の成果も含まれ水準も高い。ウクライナ理解に不可欠のポーランド史の知識も得られる。

### (2) 中井和夫『ソヴィエト民族政策史』お茶の水書房、1988年

ウクライナ(1917年-45年)のロシア革命後の民族主義とソ連の民族政策との関連に焦点を当てた本格的な研究書。ウクライナを対象とする。社会経済史的な分析と民族主義との関連がやや弱い。

### (3) 中井和夫『ウクライナ・ナショナリズム：独立のディレンマ』東京大学出版会、1998年

ウクライナ民族主義を1991年の独立以降の展開まで含めた視点で分析したもの。貴重な業績であるが、ポグロム・ユダヤ人問題の扱いが不十分。

(4) 黒川祐次『物語ウクライナの歴史：ヨーロッパ最後の大国』中央公論新社，2002年(中公新書；1655)。

ウクライナ史を古代から概観しようとしたもの。元駐ウクライナ大使。

(5) チャールズ・キング(前田弘毅監訳)『黒海の歴史』明石書店、2017年

黒海を軸に歴史を追った名著(2004年)の翻訳。読みやすく、かつレベルが高い。現在のロシア・ウクライナ問題を理解する上で役に立つ。

(6) 塩原俊彦『ウクライナ・ゲート：「ネオコン」の情報操作と野望』社会評論社，2014。

今日の事態の条件をつくった米ネオコンの活動を厳しく批判したもの。いわゆる2014年の「マイダーン革命」の分析

(7) アンドレイ・クルコフ(吉岡ゆき訳)『ウクライナ日記』集英社 2015年7月

「マイダーン革命」を支持する立場で書いたウクライナ作家の日記。しかし、「マイダーン革命」を指導したのが極右民族主義勢力であったことを事実上明らかにする記述も見られる。

(8) 六鹿茂夫編『黒海地域の国際関係』名古屋大学出版会，2017。

比較的最近のウクライナを含む黒海情勢の分析。

(9) 小野理子『女帝のロシア』(岩波新書) 2004年

現在のウクライナの枠組みへの端緒はエカチェリーナ2世の時代に形成された。ウクライナ理解に参考になる。

(10) ゴーゴリ(平井肇訳)『ディカーニカ近郷夜話(全2冊)』岩波文庫 1937年

ウクライナ出身のロシア文学の先駆者の一人。19世紀初頭のウクライナ中部

に伝わる伝承をまとめた7つの物語。柳田国男の民俗学と小泉八雲の怪談ものが重なるような作品集。ウクライナ農民の意識を知る上でも面白い。

**(11) N.オストロフスキー (金子幸彦訳)『鋼鉄はいかに鍛えられたか (全2冊)』岩波文庫、1955年**

内戦期のウクライナを舞台とするボルシェビキの立場からの自伝的小説。ロシア革命後の内戦(1918-1922)がもっとも激しかったウクライナの政治状況がリアルに描かれている。ドイツ軍、ケレンスキー政権、ウクライナ・ラーダ政府、ポーランド軍、ボルシェビキ軍などの間で展開された複雑な時代の息吹が伝わる。

**(12) トルストイ『セヴァストーポリ』**

1853年以降のクリミア戦争に従軍したトルストイが、戦争の実態を描いた傑作のひとつ。

**(13) 渋谷定輔・村井隆之編訳『シェフチェンコ詩集』れんが書房新社、1988年**

ウクライナで最も重要な国民詩人とされるシェフチェンの詩の翻訳。農奴出身で19世紀半ばに活動してウクライナ語の形成に貢献。しかしユダヤ人・ポーランド人への激しい攻撃を含む叙事詩もある。

**(14) ブルガーコフ『白衛軍』中田甫・浅川彰三訳、群像社**

内戦期に白軍の側で戦った経験をもとにした小説。

**(15) ショーロホフ『静かなるドン』**

ロシア革命期からソ連時代のドン・コサックを対象とした長編小説。舞台はロシア側のドンであるが、コサックを理解する上で重要。